

柔道整復学科学生のキャリア形成の意識調査

松原一誠¹⁾、遠藤幹人²⁾、太田見萌²⁾、板垣周平²⁾、越善力也²⁾、湯浅有希子³⁾、樽本修和³⁾

(¹⁾ 帝京平成大学大学院、²⁾ 帝京平成大学ヒューマンケア学部柔道整復学科、³⁾ 帝京平成大学・指導教員)

key words : 意識調査 (questionnaire survey) , 就労意識 (employment consciousness)

【はじめに】

近年、柔道整復師の養成が四年制大学でなされるようになった。四年制大学の中には柔道整復師の他、アスレティックトレーナー(以下、「AT」という。)、教職等の資格が目指せるなど、カリキュラムに多様性がみられる。

こうした背景のなか、学生のキャリア形成に関する研究がいくつかなされている。例えば羽石・安久・西岡(2007)¹⁾らの研究では、大学には入学したものの「大学4年間で何をしたいのか」がみえない学生が増加していることを問題視し、学生に目標設定を明確にさせることの重要性を指摘している。また、広瀬(2009)²⁾の研究は、帝京大学医療技術学部柔道整復学科の新入生を対象とした意識調査を行っている。この研究は新入生の入学段階での柔道整復師、AT、教職の資格取得に関する意識について報告がなされている。同学科は柔道整復師の資格取得を目的とする学科であるため、卒業後は柔道整復師として勤務するという前提がある。

しかし、筆者らの周囲では柔道整復学科に入学しても卒業時は柔道整復師以外の職業に就く学生が度々みられ、入学段階から卒業段階の間において、学生のキャリア意識は変化していくものと考えられる。

そこで本研究では、帝京平成大学ヒューマンケア学部柔道整復学科に在学する学生に、柔道整復師、AT、教職の資格取得と、これら資格に関する就業意識の形成過程の調査を行った。

【方法】

帝京平成大学ヒューマンケア学部柔道整復学科に所属する1~4年の学生370名を対象とし、質問用紙を用いてアンケート調査を行った。

アンケート内容は次の通りである。

①高校在学時の所属コース。

②高校時代に部活動またはスポーツクラブに所属していたか。

③高校時代の通院歴、トレーナーとの接触があったら詳しく記述してもらおう。

④数ある柔道整復師養成学校の中から本学科を選んだ理由。

⑤授業勉強以外の勉強時間。

⑥入学当時の進路希望。

⑦現在の進路希望は⑥と同じか。

⑧将来、開業または独立したいかと考えているか。

①~⑤は学生の背景を知るために予備的質問である。また、⑥~⑧が本研究の目的とする質問である。以下、⑥~⑧について結果をまとめた。

【結果】

⑥入学当時の進路希望について。

男子は接骨院への就職を希望する学生は、1年生57%、2年生71%、3年生78%、4年生70%と、4学年とも一番多かった。ATを希望する学生は、1年生31%、2年生32%、3年生22%、4年生13%であり、2番目に多い傾向にある。

女子は、接骨院で働きたいと考える学生は、1年生43%、2年生60%、3年生50%、4年生70%であり、4学年とも一番多かった。

ATを希望する学生は、1年生43%、2年生20%、3年生30%、4年生27%であり、2番目に多い結果となった。

⑦現在の進路希望は⑥と同じかについて。

男子では、入学時の希望と異なる進路を希望した学生は次の通りであった。1年生11%、2年生24%、3年生30%、4年生39%であった。上級生になるにつれて「いいえ」と答える学生が増える結果であった。

同じでない場合、変更後の希望進路について。

⑥の質問で「いいえ」と答えた学生の中で最も多かった理由は一般職を希望するものと、進路の迷いによるものが、同数で一番多かった。

また、女子では、入学時の希望と異なる進路を希望した学生は次の通りであった。1年生20%、2年生25%、3年生30%、4年生50%であった。上級生になるにつれて「いいえ」と答える学生が増加した。

同じでない場合、変更後の希望進路について。

⑥の質問で「いいえ」と答えた女子学生では、一般職に就きたいという回答が一番多かった。また、学習の困難さから、ATと柔道整復師のダブル資格取得を諦め、柔道整復師の資格取得に専念する学生もいた。

⑧将来開業または独立したいか、について。

男子では「はい」が、1年生67%、2年生59%、3年生71%、4年生61%であり、すべての学年で半数以上が開業を希望している結果となった。

女子では「はい」が、1年生90%であったが、2年生以降は逆転し、「いいえ」が65%、3年生90%、4年生89%となり、学年が上がるにつれ開業を希望しない傾向が顕著にみられた。

【考察】

男女とも学年が上がるにつれ、入学時の希望を変更する人数が増加している。これは、入学時に自身が思い描いていた仕事内容と現実が異なることが、在学中に理解されたという理由、またカリキュラムの多忙からATや教職を諦める学生がいるなどが考えられる。また、柔道整復師以外に関心が向いたり、医療への関心が薄れたりするなどの理由も示唆された。こうした理由から、一般職への希望の変更がみられ、キャリア形成に迷いが生じているものとみられる。

【まとめ】

下級生には、柔道整復師、AT、教職などの業務内容を理解し、積極的に研修などの形で医療現場に立ち、早期にキャリア設定を明確にすることを推奨する。

【文献】

- 1) 羽石寛寿, 安久典宏, 西岡久充. 大学におけるキャリア支援教育の研究. 経営情報研究. 2007, 第15巻第2号. 89-108.
- 2) 廣瀬文彦. 大学柔道整復学科新入生の意識調査 -2008年度入学-. 帝京大学スポーツ医療研究. 2009, 創刊号. 33-38.